

目次

序	i
I. 緩和医療総論	恒藤 暁, 岡本禎晃 2
1. 世界保健機関による定義と要件	
2. 緩和医療の理念と全人的苦痛 (total pain) からの解放	
3. 世界の緩和医療の現状と問題	
4. 日本の緩和医療の現状と薬剤師への期待	
II. 緩和腫瘍学	加藤裕久 6
1. わが国のがん患者の動向	
2. がん治療の現状	
3. 緩和化学療法	
4. 緩和外科療法	
5. 緩和放射線療法	
6. その他の緩和治療	
III. 全人的苦痛と痛みの評価	余宮きのみ 16
1. アセスメント (評価) の必要性	
2. 全人的苦痛	
3. 痛みのアセスメントの流れ	
4. 初期アセスメント	
5. 継続アセスメント	
IV. がん疼痛治療	
1. 痛みのメカニズム	成田 年, 新倉慶一, 葛巻直子, 鈴木 勉 24
1. 痛みの解釈と分類	
2. 痛みの伝達: 末梢から脊髄まで	
3. 末梢 (自由終末) に存在する侵害受容器と「痛み」を仲介する分子	
4. 末梢神経損傷による末梢性感作	
5. 脊髄における痛みの伝達	
6. ゲートコントロール説	
7. 末梢神経損傷による中枢性感作	
8. 痛みシグナルの脊髄上行路と視床	
9. 痛みと大脳皮質	
10. 痛みの抑制とオピオイド神経系の役割	
11. オピオイド受容体	
12. オピオイド受容体を介した細胞内情報伝達系	
13. モルヒネの中枢性鎮痛作用の発現機序	

2. 薬物療法 1：基礎：WHO 方式がん疼痛治療法を中心に	武田文和	50
1. WHO（世界保健機関）方式がん疼痛治療法		
2. WHO が目指したところ		
3. 倫理的考察		
4. がんの痛みとその治療とは		
5. 日本での取り組み状況		
6. チームアプローチの重視		
7. がんの痛み治療の主軸は鎮痛薬		
8. がんの痛み治療における鎮痛薬使用の基本原則		
3. 薬物療法 2：応用：胸水、腹水	の場元弘	62
1. 胸水と腹水		
2. 病態別に検討すべき問題点		
4. 神経ブロック	樋口比登実	68
1. 神経ブロックの作用		
2. 神経ブロックの特徴		
3. 代表的な神経ブロック		
5. 放射線治療	清水わか子	73
1. 痛みの責任病巣		
2. 放射線治療の適応		
3. 鎮痛薬の併用		
4. 有痛性骨転移に対する放射線治療		
6. 鎮痛補助薬	下山恵美, 高橋秀徳, 下山直人	78
1. 鎮痛補助薬とは		
2. 鎮痛補助薬の使い方のポイント		
3. 鎮痛補助薬として使用される向精神薬の種類と機序に基づく治療法		
4. 鎮痛補助薬そのものの副作用		
V. 非オピオイド性鎮痛薬		
1. 非ステロイド性抗炎症薬	佐野元彦	94
1. NSAIDs の薬理作用		
2. NSAIDs の有効な痛みとアセスメント		
3. 緩和ケアで使用される主な NSAIDs		
4. NSAIDs による主な副作用		
5. 主な薬物相互作用		
2. 解熱鎮痛薬（アセトアミノフェン）	伊勢雄也	106
1. アセトアミノフェン		
VI. オピオイド性鎮痛薬各論		
1. モルヒネ（塩酸モルヒネ, 硫酸モルヒネ）	小野秀樹	112
1) 構造, 剤形 / 2) 作用部位 / 3) 薬物動態 / 4) 用法 /		

5) 副作用／6) 相互作用／7) 依存性・退薬症状

2. オキシコドン 伊東俊雅 117

- 1) 構造, 剤形／2) 作用部位／3) 薬物速度論的パラメーターと薬物動態
- 4) 用量／5) 副作用／6) 相互作用／7) 依存性・退薬症状・過量投与

3. フェンタニル 荒木博陽 121

- 1) 構造・剤形／2) 作用部位／3) 薬物動態／4) 剤形別薬物動態の特徴
- 5) 用法・用量／6) 副作用／7) 相互作用／8) 留意事項
- 9) オピオイド・ローテーション

4. コデイン 徳山尚吾 124

- 1) 構造, 剤型／2) 作用部位／3) 薬物動態／4) 用法／5) 副作用
- 6) 相互作用／7) 依存性, 退薬症状

5. その他のオピオイド 武田弘志, 宮川和也, 辻 稔 127

1. その他の麻薬性鎮痛薬／1) ペチジン
2. 麻薬拮抗性鎮痛薬 (作動性拮抗薬) ／1) ペンタゾシン／
2) ププレノルフィン／3) ترامドール
3. 麻薬拮抗薬／1) ナロキソン

6. オピオイド・ローテーション 中西弘和 130

1. オピオイド・ローテーション (オピオイド・スイッチング) とは
2. オピオイド・ローテーションを実施する前に
3. オピオイドの特徴を把握する
4. オピオイド・ローテーションの実施と各オピオイドの換算

7. オピオイドの代謝と排泄 (クリアランス) 平山武司 138

1. モルヒネ／1) 代謝 (肝クリアランス)／2) 代謝物とその排泄
2. オキシコドン／1) 代謝 (肝クリアランス)／2) 代謝物とその排泄
3. フェンタニル／1) 代謝 (肝クリアランス)／2) 代謝物とその排泄

VII. 副作用対策

1. 嘔気, 便秘, 眠気 片山志郎 148

1. 嘔気
2. 便秘
3. 眠気
4. 副作用対策薬に付随する副作用: アカシジア (薬原性錐体外路症状)

2. 呼吸抑制 亀井淳三 155

1. 呼吸の調節
2. オピオイドの薬理作用に関与する受容体
3. 呼吸機能に対するオピオイドの作用
4. オピオイドの副作用としての呼吸抑制とその危険因子
5. 呼吸抑制に対する対応

3. 幻覚・錯乱, せん妄, 排尿障害, 掻痒感, 口渇 …………… 加賀谷 肇 161

1. 幻覚・錯乱
2. せん妄
3. 排尿障害
4. 掻痒感
5. 口渇

4. 依存性・耐性 (精神・身体) …………… 鈴木 勉 167

1. 薬物依存・鎮痛耐性とは
2. 薬物依存・耐性の形成過程
3. 依存性薬物
4. 薬物乱用の歴史
5. 医療用麻薬と不正麻薬
6. がん疼痛治療と医療用麻薬
7. がん疼痛治療と医療用麻薬の依存性と耐性
8. 疼痛下における医療用麻薬の精神および身体依存の抑制機序
9. 疼痛下における医療用麻薬の鎮痛耐性の抑制機序
10. 処方薬乱用

VIII. 精神的な苦痛に対する対応

1. 不安, 抑うつ, せん妄 …………… 竹内尚子 176

1. 不安
2. 抑うつ
3. せん妄

2. がん患者とのコミュニケーションについて …………… 打保裕子, 平井みどり 184

1. コミュニケーションについて
2. コミュニケーションスキル
3. SPIKES

3. 薬剤師の居宅訪問におけるがん患者とのコミュニケーション …長谷川 寛 192

1. コミュニケーションの第一歩
2. 居宅訪問の開始
3. 早期に信頼関係を構築するために必要なスキル

IX. チーム医療としての緩和ケア

1. チーム医療としての緩和ケア …………… 塩川 満 200

1. チーム医療の概念
2. 緩和ケアでチーム医療を支える職種の役割
3. 緩和ケアにおける薬剤師の役割の明確化
4. 症状緩和に対するチームの関わり
5. 薬業チームの形成が緩和ケア向上の鍵を握る

2. 在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割 轡 基治 205

1. 在宅医療が必要となった社会的背景
2. 在宅患者の quality of life (QOL)
3. 在宅医療とチームケア
4. チーム内でのコミュニケーション
5. 在宅緩和ケアチームにおける薬剤師
6. 患者に教わりながら支える

X. 服薬指導

1. オピオイドの服薬指導 篠 道弘 212

1. オピオイド製剤に関する服薬指導の要点
2. 服薬指導用小冊子および各種の用紙
3. レスキュードーズに関する知識

2. 在宅での緩和ケアにおける服薬指導 川村和美 221

1. 診療報酬改定で変化する薬剤師の役割
2. 医療用麻薬の具体的な薬剤管理指導
3. 服用方法の説明
4. 在宅における服薬指導のポイント
5. 在宅で緩和ケアを受けるがん患者とその家族への服薬指導の重要性

3. 自己調節鎮痛法 (patient-controlled analgesia : PCA)

..... 荒井千春, 小口敏夫 231

1. PCA の特徴
2. PCA ポンプ
3. PCA の実施
4. 患者に対する服薬指導のポイント

XI. 麻薬・向精神薬の管理 佐藤健太郎 238

1. 免許 / 2. 購入 (譲り受け, 譲り渡し) / 3. 管理・保管
4. 施用・交付 / 5. 麻薬処方箋 / 6. 記録
7. 廃棄 / 8. 事故届 / 9. 年間報告
10. 麻薬中毒者診断届, 転届 / 11. その他 / 12. 向精神薬の管理

あとがき 247

資料1: 緩和薬物療法認定薬剤師 要項 248

資料2: 薬剤師が抑えておくべき「がん対策基本法」 249

索引 253